

# 学習指導案の形式（例） 中学校数学科

第〇学年〇組 数 学 科 学 習 指 導 案

令和〇年〇月〇日（〇）第〇校時 〇〇教室 指導者 〇〇 〇〇

## 1 単元名 〇〇〇〇〇〇〇〇

◇「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（以下、「参考資料」とする）」の巻末資料には、中学校数学科における「内容のまとまりごとの評価規準（例）」が示されており、学習範囲は教科書の「章」と概ね一致する。中学校数学科では、この「内容のまとまり」や「章」をそのまま単元として捉えることが可能である。

## 2 単元の目標

◇学習指導要領の「各学年の目標」から該当する箇所を抽出することを基本とし、「内容のまとまり」の記載事項等を踏まえて設定する。

- (1) 「知識及び技能」に関する目標（例：～を理解する。～できる。～身に付ける。）
- (2) 「思考力、判断力、表現力等」に関する目標（例：～できる。）
- (3) 「学びに向かう力、人間性等」に関する目標（例：～態度を身に付ける。）

## 3 単元の評価規準

- ◇評価規準の設定に当たっては、「参考資料」等を参考にして適切に設定する。
- ◇「知識・技能」「思考・判断・表現」は、「内容のまとまりごとの評価規準（例）」を参考に、丸数字で表記することを基本とする。学習指導要領の「学年の目標」や内容のまとまりの「用語・記号」「内容の取り扱い」で示されている内容を反映させることがある。
- ◇「主体的に学習に取り組む態度」は「内容のまとまりごとの評価規準（例）」で示されている文章を参考に、文節で分けて丸数字で記すことを基本とする。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①例：～理解している。 ～できる。	①例：～できる。 ～している。	①例：～している。
②	②	②
③		③

4 指導と評価の計画（全○時間）

次	時	ねらい・学習活動	重点	記録	評価規準及び評価方法
一	1	◇「ねらい・学習活動」は生徒の立場で書く。 ◇「3単元の評価規準」の観点を中心に、「重点」にその時間の学習状況を重点的に評価する観点を書く。「評価規準及び評価方法」は、観点と丸数字をつなげて書き、主な評価方法を併記する。 ◇「記録」欄の○印は、評価規準に照らして、生徒全員の学習状況を記録に残す場面として示す。	知		知①：ノートの記述
	2		思		思①：行動観察、ノートの記述
	3		態		態①：行動観察
			知	○	知①：小テスト
二					

5 指導上の立場

- 単元観
- 生徒観
- 指導観
- 研究主題との関連
- 全国及び県学力・学習状況調査との関連

◇指導者の立場で書く。

◇単元観…学習指導要領を参考に、「単元を通して身に付けたい力」について整理するとともに、「単元の系統性」（既習事項、今後の学び）も併せて整理する。

◇生徒観…単元や本時に関する既習事項の定着状況と学習に関する学級の課題を、生徒の実態として記述し、整理する。

◇指導観…単元観と生徒観で記述した内容を基に、学習上の課題を踏まえて「単元を通して身に付けたい力」をよりよく育む指導者の意図や思いとともに、仮説、学習形態、その他の配慮事項等、具体的な指導・支援の工夫や手だてを書く。

◇研究主題との関連…研究主題を簡潔に記述し、研究主題と授業における指導方法の工夫等との関連等を書く。

◇全国及び県学力・学習状況調査との関連…現状と課題、本単元における課題解決を図る取組を書く。

6 本時案（第○次 第○時）

(1) 本時の目標

- ◇「2 単元の目標」「4 指導と評価の計画」との整合を図る。
- ◇本時の評価基準との整合を図る。
- ◇生徒の立場で書く。

(2) 展 開

学習活動	教師の指導・支援	評価規準及び評価方法
1		
◇生徒の立場で書く。	◇指導者の立場で書く。	◇生徒の立場で書く。
2 (1)	<p>めあて</p> <p>◇生徒の目的意識のまとまりを踏まえて、何をどのように学ぶのかを明確にして本時のめあてを書く。</p> <p>○例：～することで、～できるようにする。</p>	<p>◇本時の目標と整合した評価規準を具体的に書く。抽象的な文言ではなく、実際に評価可能なレベルで具体化する。</p> <p>◇評価の場面は1、2箇所に絞る。</p> <p>◇評価基準に合わせて、評価の観点名を明記する。</p> <p>◇評価方法を具体的に書く。</p>
(2)	<p>◇活動に順序がある場合は、(1)(2)で書く。</p> <p>◇学習活動に沿って、指導・支援の意図、指導方法の工夫等について留意すべきことを具体的に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が主体的に学習を進めるための手だて</li> <li>・生徒が対話的に学習を進めるための手だて</li> <li>・生徒が学習を深めるための手だて</li> <li>・生徒一人一人の学習状況に応じた手だて</li> <li>・予想される生徒の反応</li> <li>・資料提示のタイミングや方法</li> <li>・効果的な学習方法や学習形態の工夫・準備物 等</li> </ul>	<p>◇学習活動と教師の指導・支援との関わりを対応させて書く。</p> <p>◇「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への手だてを書く。</p>
3 (1)		<p>○例：～している。 [評価の観点] (評価方法)</p> <p>◇評価の方法の例 ・行動観察 ・ノート、ワークシートの記述等</p>
4	<p>◇導入・展開・終末の学習過程に沿って、生徒の学習活動を具体的に書く。</p> <p>◇授業展開については、「岡山型学習指導のスタンダード（授業5）」を参考にする。</p>	
5	<p>まとめ</p> <p>◇本時に何を学んだのかが分かるように整理し、本時のめあてと対応したまとめを書く。</p> <p>◇学習の成果が自覚できる振り返りの視点を明確にして書く。振り返りの視点は、『岡山型学習指導のスタンダード【増補版】授業改善「一歩先へ！」を参考にする。</p>	

◎「おおむね満足できる」状況（B）と判断する生徒の姿の例

- ◇本時の評価規準に照らして、本時でねらう生徒の姿について、想定される生徒の発言や記述例等を取り入れながら具体的に書く。なお、ここに挙げる具体的な生徒の姿が、どのような指導によって表れるのか等、指導と評価のつながりを意識して書く。